



第1回 支え合いで 元気になる 町づくり勉強会



5月27日(金)に農村環境改善センターにおいて、「第1回支え合いで元気になる町づくり勉強会」が町地域包括支援センターの主催で開催されました。高齢者の方が、ひとり暮らしとしても、介護が必要な状態になったとしても、住み慣れた金山町で暮らせるようするために、この日は、町議会議員をはじめ、区長、民生委員、老人クラブ、シルバール人材センター、さわやかサロン等計58名が参加し、議論を交わしました。

勉強会では、公益財団法人さわやか福祉財団理事の鶴山芳子氏が講演を行い、続けて「目指す地域像を考えよう!」というテーマで10グループに分かれてグループワークを実施しました。活発な議論がなされ多くの意見が出されました。発表を一部ご紹介いたします。

○「気軽に挨拶ができる町金山」

頼んだり頼まれたりする関係をつくるためには日頃から挨拶し合う関係づくりが必要。

○「金山型3世代同居暮らし」

3世代同居をさらに増やしたい。そのためには、同じ年代同士が話し合いの場を持ち、気持ち解放することが大切。家族にもやさしくなれる。空き家をシェアハウスに活用する手もある。

○「施設に入らなくても、お金をかけなくても暮らせる地域」

地区の集まりでは色々な年代の人が、ある物を持ち寄り、お金をかけず楽しく過ごしている。

各グループの発表を受け、鶴山理事は「居場所があることで解決できる課題が多い。寝たきりの方や閉じこもりの方でも、自分の力を活かせるということが生きる活力につながる」と総括し、参加者の皆さんは頷きながら、納得の表情で聞き入っていました。

続けて鶴山理事は「自分でできることは自分でやり、できないことは助け合う」という意識が

大切。行政からの補助金がなくても、自分達で取り組むことができ、それが持続可能なものである」とアドバイスを述べ、支え合い社会をつくる上で最も大切な意識のひとつである「自助と互助」について強調しました。

金山町の高齢化率は平成28年4月1日現在で32.4%、高齢者のみの世帯数は282世帯。今後更なる高齢化率の上昇が想定される中で、町地域包括支援センターでは、このような勉強会を重ね、支え合い意識の気運を醸成していきたいと考えています。次回は下記のとおり開催します。支え合い活動の旗振り役を担う「生活支援コーディネーター」についても、勉強会を通して選出する予定です。関心のある方は是非ご参加ください。

「第2回 支え合いで元気になる町づくり勉強会」

日時：7月19日(火) 午後1時～3時30分

会場：農村環境改善センター

○参加申込みは町地域包括支援センターへ

☎52-3035 申込締切は7月14日(木)